

11/27『人生で一番うれしいことは?』(ルカ2:10~12)

長谷川 望 牧師

- *「人生で一番うれしいことは何ですか?」答えは「この世に生まれてきて、今も生きていること」ではないか。このことを可能にしてくださっているのは神様なので、「神様が私を母の胎の中で造り挙げ、今も生かしてくださっている」ことがうれしい。だから一年ごとの私たちの誕生日は「ハッピー」なのである。世はイエス・キリストという方の誕生を2千年以上お祝いしてきた。それがクリスマスである。キリストの降誕はどうして「ハッピー」なのだろうか。
 - *「クリスマス」は「キリストス(キリスト)」と「マス(礼拝)」の二つのことばでできている。元の言葉からすると、意味は「キリストを礼拝すること」なのである。そのクリスマスを待ち望む期間である「アドヴェント」はクリスマスの4週間前から始まる。神様の前に静まり、節制して悔い改める時である。ドイツのクリスマスケーキである「シュトローレン」は幼子イエスさまが白い布でくるまっている姿であり、少しずついただきながらクリスマスを待つ。
 - *「御使いは彼らに言った、『恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。』」(ルカ2:10~12)
- 御子の誕生は最高の喜びである。それはだれか特定の人の喜びではなく、この地上のすべての人が喜ぶべき事実である。ダビデ王が生まれた町でもあるベツレヘム。ここでその家系からイエス・キリストがお生まれになった。このことは旧約聖書に預言されていたのである。
- *この方は「救い主」であった。一般的な「救い」とは、病気や、貧困、社会的悪、悪い人間関係から逃れること。また、孤独や不安や恐れや苦痛などが無くなることであろう。実際イエス・キリストは、これらのことに具体的に手を差し伸べたり、闘って来られたことが聖書の至る所に示されている。しかし、これらの暗い部分の元にあるものは、「罪」という、全ての人が生まれつき持っているやっかいな性質である。神から離れようとする、神に反抗しようとする心の奥の、魂の性質なのである。この「罪」がそのままある限り、私たちの心の奥底に平安がない。しかし、私たち自身の力や努力でこの罪を無くしたり、闘って勝つことはできない。
 - *そこで、助け船として神様が送ってくださったのがイエス・キリストである。この方は「主」すなわち神であり、全く罪のない方である。そして「キリスト」すなわち「救い主」であった。私たちを罪から救うために神が人となって来られたのである。だから、私たちにとって最高の「ハッピーバースデー」なのである。